

学術講演

第15回生研学術講演会
「環境問題の視点からのこれからの工学研究」
開会の挨拶

坂内 正夫 (東京大学生産技術研究所 所長)

われわれ生産技術研究所は、毎年こういう形で学術講演会を開かせていただいております。今年も駒場に引越しをしてきて、その第1回目ということでございます。

生産技術研究所は、自ら国際総合工学研究所ということを目指しており、新しい工学の研究所として活動しております。

従来、工学というと、何かのフィールドのモノづくりという学問だったわけですが、これからの工学は、社会とか人に対して新しい価値の提案をしていったり、あるいは社会・人間の課題についてのソリューションを出していく、そういうことが具体的なターゲットだと思っております。生産技術研究所は、そういった新しい価値づくり、課題へのソリューションづくりのために、ほかの大学ではとりにくいスタンスをとっております。それはいろいろな工学の分野を横断的に融合してその価値をオフアーしたりソリューションを出したりしようということでございます。

そういう意味でわれわれの中でいくつかいろいろなプロジェクトがありますけれども、いわゆる電気とか機械とか土木とか、そういったそれぞれの縦に分かれた分野だけで

は答えの出ない横断的・融合的プロジェクトを特徴的に行なっております。今日のテーマである環境問題というのは、まさにその典型でございます。

今日のプログラムにありますように、環境というのは極めて幅広い分野でして、それぞれをメインにやっているフィールドというのは工学の全分野にまたがっておりますし、工学だけではなくて、いってみればこれからの社会、人類はどうあるべきかというような理念の提案と、そういった答えを出す具体的なツールというのがうまく交わりあわなければいけない。その意味で最初に申し上げたような分野を融合して新しい価値をつくる、課題に対するソリューションをつくるという重要な分野だと思っております。力を入れているものでございます。理念だけを言うのはあちこちにいるのですけれども、われわれのところは、きちんとしたそれぞれの分野でそれを実現するツールの研究も行い、それを融合しているということで、今日、有効な時間を過ごしていただきたいと思っております。

以上、簡単ですが、挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございました。